言語・文学委員会人文学の国際化と日本語分科会（第 25 期・第９回）
議事要旨

開催日時：2021 年 12 月 17 日（金）9：30～11：40
開催場所：Zoom によるオンライン開催
参加者（敬称略）：窪薗晴夫、桑原聡、田口紀子、竹本幹夫、巽孝之、
日比谷潤子、松森晶子、米田信子　（欠席：沼野充義）

議題
（１）「提言・見解」の区別と今後の方針について（総会・拡大役員懇談会の報告を受けて）
（２）提言（要旨・本文・補足資料）案の検討
（３）今後の予定
（４）その他

議事内容

(1) 提言・見解の区別と今後の方針について

日比谷委員から､12 月 13 日に開催された拡大役員懇談会の報告が成された。その要点は以下の通りである。

・「学術会議が社会の要請や課題を先取りし、学術分野横断的に、総合的・俯瞰的な観点から科学的助言を行えるような仕組みを構築するため」、日本学術会議では「意思の表出」の改善のための再編･見直しが行われることとなった。分野別委員会・分科会・若手アカデミーが案を作成する「意思の表出」は、これまでの「提言」等に加えて、あらたに設けられた「見解」という新カテゴリーによって行なわれることとなった。

・「提言」の発出主体は学術会議であるのに対して、「見解」の発出主体は「部・委員会等」である。送付先は提言が担当大臣、見解は関連省庁となる。

・本分科会が現在準備中のものは、1 月ないしは 2 月の「対応委員会」（副会長 1，第 1・２・3 部の副部長と幹事各 1 名プラス若干名から構成される）によって、「提言」とすべきか「見解」とすべきか助言が行われる見通しである。

この報告を受けて、本分科会の今後の方針について議論した。現在準備中のものは、他の委員会（哲学・史学など）との連携が十分成されていないことから、「見解」に分類される可能性もある。省庁どまりの「見解」ではその影響の度合いは測りがたい。大臣に直接届けられる「提言」に位置づけるためには、今後関連する委員会や他の分科会とさらなる連携を図っていく必要があるこ

とを確認した。今後の予定は、従来通り 1 月中旬にはとりあえず完成稿を仕上げ、提出のタイミングを測ることとなった。完成稿から提出までの間の時間的な余裕によってさらなるブラッシュアップを行うことも了承された。

(2) 提言の本文（案）の検討

すでにメール添付にて全員に配布されている原案に基づいて、提言案の要旨・本文・補足資料についての詳細な検討を行い、必要な修正を施した。文字や文言の統一、句読点などについても検討を行った。

(3) 今後の予定

なお書式上の統一は成されているか、「たとえば・例えば」「一つ・ひとつ」などについての表記上の統一は成されているか、誤字・脱字はないかなどについて、さらなる検討を行うこととなった。

1 月中旬に提出することを目途に、以下のように分担を決めて、さらに検討することになった。

０．作業用ファイルの作成（窪薗委員）12 月 17 日まで
１．目次・委員会名簿の検討（竹本委員）12 月 17～19 日
２．表記の統一について検討（桑原委員、巽委員、日比谷委員）12 月 17 日～21 日
３．書式の統一について検討（田口委員、松森委員、米田委員）12 月 22 日
４．最終チェック（竹本委員、窪薗委員）

なお修正が必要な箇所があれば、その都度、メーリングリストを通じて全員に周知することになった。次回の分科会は、成稿提出後、対応委員会からの回答を待って開催することとする。

5. その他

特になし。

以上

（文責：桑原・松森）